

佐世保市立江上小学校

所在地 佐世保市指方町 2382 番地

校長 堤 祐子

児童数 276級数 16名 学



えがおいっぱい

がまんぶよい

みんななかよし 江上っ子



テーマ

本校の特色を生かした学習活動の推進

～ 江上小学校3つのコンセプト ～

I 目的と主な実践内容

江上小学校特色ある学校づくり



心の教育の充実

- ・代掻き 田植え 稲刈り 餅つき体験活動 (5年)
- ・江上文旦栽培活動 (2年)
- ・学年園等での栽培活動と食育学習 (1・2年)
- ・8・9平和集会 (全学年)
- ・花いっぱい運動 (全学年)
- ・みんななかよしスマイルディ (全学年)

キャリア教育の充実

- ・ダービースクールとの相互交流活動 (3年)
- ・平和体験学習 (4年)
- ・運輸に関する体験学習 (5年)
- ・竹原義人氏による夢をかなえる授業 (6年)

学力充実

- ・学習が好きになる授業改善
- ・学力調査 (算数 全学年)
- ・図書館教育の充実
- ・家庭学習への取り組み
- ・漢字検定 (育友会主催)
- ・図書ボランティアによる読み語り, 図書室環境の充実



家庭・地域への情報発信

- ・HPの充実
- ・江上小スクールガイドの作成



心の教育の充実

自然環境を生かした体験活動

米作りと餅つき体験活動(5年) ～地域(農家の方)との連携～

5年生は、学校周辺の豊かな自然環境を生かし、地域の農家の皆さんの温かい協力のもと、小学生が農業体験活動に取り組みました。6月の代掻きから田植え、そして10月の稲刈りまで、一連の農作業を通じて、米作りの苦勞と喜びを肌で感じました。子どもたちの生き生きとした表情は、農業の魅力と地域の絆を物語っていました。



また、自分たちで育てたお米で餅つき体験を行い、その餅を全校児童に配付しました。手作業で丁寧につないだ米づくりの物語は、子どもたちの笑顔とともに学校中に広がりました。地域の方々の指導で、農業の喜びと食の大切さを全校で共有する、心温まる交流の場となりました。

江上文旦栽培(2年) ～地域(農家の方)との連携～

2年生は、地域のみかん農家の方をゲストティーチャー(GT)としてお招きし、年間を通して学校園で江上文旦づくりを体験しました。子どもたちは、文旦の栽培方法や成長についてGTから説明を聞き、その後、成長の様子を観察しながら世話をしてきました。12月に200個ほどの文旦を収穫でき、熟成させて、よい香りがしてきた1月にGTに上手な皮の向き方を教えてもらい、試食会を開きました。地域の名産である江上文旦について知識を得るだけでなく、そのおいしさ、収穫の喜びも味わうことができました。地域の宝である江上文旦を大切に育てる経験は、子どもたちの心に深く刻まれました。



栽培活動と食育(1・2年)～地域(農家の方)との連携～

学校の畑を利用して、地域の農家の方の指導や協力をいただきながら、年間を通して野菜の栽培活動に取り組みました。きゅうり、ピーマン、ミニトマト、ナスなどの夏野菜や、さつまいもなどを丁寧に栽培してきました。子どもたちは野菜の成長の様子を熱心に観察し、自分たちで育てた野菜を収穫する喜びを心から感じるようになりました。また、収穫の感動を紙版画に表現したり、収穫したお芋や野菜を家庭に持ち帰り、家族と一緒に調理を楽しんだりして、収穫の喜びを家族と共有することができました。



長崎への平和学習

六月の終わり、4年生は長崎へ平和学習に行きました。小雨交じりの空の下、原爆の悲惨な歴史を直接学び、平和の尊さを深く考える貴重な機会となりました。

平和公園では、犠牲となった多くの人々への祈りを込めて建てられた慰霊碑や、悲劇を伝える数々のモニュメントを見学しました。原爆死没者追悼平和記念館では、当時の写真や遺品を通じて、戦争の非人間性と平和の大切さを痛感しました。

針尾無線棟では、戦時中の通信施設の歴史を学びました。この建物は、戦争の悲劇的な記憶を今に伝える貴重な遺構として、私たちに深い学びを与えてくれました。長崎での経験は、平和とは何か、人間の尊厳とは何かを考える、忘れることのできない旅となりました。



キャリア教育の充実

地域の特色を生かし夢に向かう体験活動

ダービースクールとの交流活動(3年) ~異校種(アメリカンスクール)との連携~

米軍佐世保基地針尾住宅のダービースクールと江上小学校の3年生が、12月と2月の2回、互いの学校を訪問し合い、心温まる文化交流を実施しました。江上小学校では、ブンブンゴマなどの日本の伝統的なおもちゃを紹介し、子どもたちは一緒に遊びながら笑顔を交わしました。ダービースクールでは、子どもたちがボードゲームを通じて交流を深め、お互いの言語や文化の違いを乗り越えて楽しい時間を過ごしました。遊びを通じて友情を育み、異文化理解を深める貴重な学びの機会となり、両校の子どもたちの視野を大きく広げることができました。



運輸に関する体験学習(5年生)

地域の子どもたちに、物流と運輸の大切さを伝える貴重な体験学習が今日開催されました。地元トラック協会によるボランティア授業は、単なる車両紹介を超えた、未来を担う子どもたちへの熱い想いに満ちていました。

赤いカラーコーンで区切られた会場には、大型トラックや特殊車両が並び、子どもたちは目を輝かせながら熱心に説明を聞いていました。白いヘルメットを被った児童たちは、運転席に座ったり、車両の大きさに驚いたりしながら、物流の最前線を肌で感じていました。

トラック協会の方々には、単に車両を見せるだけでなく、物流の社会的意義や、運転手の仕事の重要性を丁寧に解説。子どもたちの好奇心を刺激し、将来の職業選択への可能性を広げる、まさに生きた学びの場となりました。



ゲストティーチャーによるキャリア教育(6年)

令和の時代を生きる子どもたちへ、グローバルな視点と挑戦する心を育むキャリア教育の講演会を開催しました。

竹原義人氏による特別授業は、単なる講話を超えた、子どもたちたちの可能性を大きく広げる貴重な体験となりました。スクリーンに映し出されたアフリカの人々との記念写真は、子どもたちたちの好奇心を一気に刺激しました。竹原氏は、勇気を持って世界に飛び出すことの素晴らしさを、自身の体験を通じて力強く語りかけました。

子どもたちは真剣な眼差しで講話に耳を傾け、未知の世界への探求心と可能性を感じ取っていました。異文化理解の重要性、挑戦することの意義、そして世界には多様な生き方があることを学ぶ、まさに生涯の思い出となる授業でした。

この経験は、子どもたちの視野を広げ、将来の夢と可能性への扉を大きく開いたと感じました。



学力の充実

授業改善と家庭学習の習慣化「江上メソッド」の取組

学力調査の実施、基礎学力の向上

2年間の研究を基に、ウェルビーイングの向上を目指して実践に取り組みました。特に、国語や算数の学習を楽しめるよう工夫を行いました。主にEライブラリとドリルプラネットを、自主学習および家庭学習に活用し、児童一人ひとりの進度に合わせた選択による学習が定着しました。また、主体的な学習の展開を目指して、フィグジャムやスライドなどを積極的に調べ学習や協同学習に使用しました。これにより、児童のスキルが向上し、一人一台端末の効果的な利用を推進することができました。これらの取り組みの成果は、学習に対する意識の向上として現れています。



また、今年度は、学習に関するアンケートを学校独自に設定し、7月、11月、2月の3回実施しました。このア



アンケートでは、「国語や算数の学習が好き」と答えた児童の4段階評価の平均値が、3.05 から 3.11 へ大きく伸びました。また、1月に全学年で算数科の標準学力検査を実施し、児童の学力（標準スコア）の伸びを測定いたしました。1年生は標準スコア（偏差値）54.6 ポイントを記録しました。同一集団（経年比較）を比較すると、2年生、4年生、5年生においては、標準スコアに0.2ポイントから2ポイントの伸びが見られました。

図書館教育の充実 ～ボランティアとの連携～

図書ボランティア・読み語りボランティア、学校司書との連携を密に図って図書室はいつも整備され、季節感あるコーナーや掲示物により、児童の読書意欲が高まっています。目標を3万冊とし取り組むことができました。また、保護者・地域の方に読み語りボランティアとして、月曜日の朝の時間に読み語りをいただいています。魅力的な図書館環境と具体的な図書指導により、児童の読書力が向上し、学力向上にも結びついています。



情報発信

地域と共にある学校づくりのために

スクールガイドの作成

入学式、新入学説明会等、様々な機会に配布

学校ホームページ・学校だより等の充実

・「輝け！江上っ子」の記事更新

3 おわりに

保護者・地域・諸機関・各ボランティアの方々にご協力をいただき、本校の「特色ある学校づくり」をより充実させることができました。学習活動を支えてくださった方々に深く感謝申し上げます。本校で培った力が、子供たちの「生きる力」となり、これからの将来が先の見えない不透明な時代であったとしても、心豊かな江上の地域人、日本人、国際人となり、社会に貢献してくれることを強く願っています。